

単元名「新しい時代の幕開け」(第6学年)

単元を貫く問い

新しい政府はどのようにつくられ、日本はどのように変わっていったのだろう

付けたい力を達成した児童の姿(具体的な表現)

明治政府は、西洋の文化を取り入れながら、西洋に負けない国づくりを目指すために近代的な国家を目指して政治や社会のしくみづくりを進めていった。高知県から始まった自由民権運動は、武力ではなく言論で人々を動かそうとし、現代政治の基礎となっている。

【授業者】永野 和明 教諭



【ゲストティーチャー】 自由民権記念館 濱田 実侑さん



教材研究会(9月25日実施)

昭和小学校からの提案

◆「単元構想」

問題の追究・解決を通して資質・能力を育成する単元づくりとして、特に、「単元を貫く問い」と「追究・解決のプロセスでの問い」とのつながりがもてるようにし、児童が単元全体を通して、見方・考え方を働かせることができるよう単元を構成した。

◆「課題に対して、児童が自分の意見や考えを持てる子」の育成

本時の指導では、「新聞の葬式」を土佐の人々がなぜ行ったのか、その理由を考える。本時まで、政府側の考えやどのような弾圧を行ったのか、言論を統制された人々はどのような思いだったのかを考えさせたり、自由民権記念館を訪ね、土佐の人々の思いに触れさせたりしておく。児童がここまでの学びを踏まえて、本時で自分の意見が持てるような展開を考えた。

単元構想図「新しい時代の幕開け」

課題をつかむ・予想する 新しい政府はどのようにつくられ、日本や高知はどのように変わっていったのだろう。

調べる・追究する 資料をもとに調べる 比較しながら調べる 見学・調査・聞き取りなどで調べる 追究する

学び合う・深め合う

事実から自分はどう考えたか自分の考えを広げる 社会的事象を立場を変えて考える 学んだことを自分事として捉え、当事者の気持ちになって考える



澤井先生からの指導・助言

◎問題解決的な学習で授業設計(単元構想)をする

- ①単元等全体の学びのゴールを具体的に考える。
②単元等の学習の方向を描く学習課題(問い)を考える。
③子供の思考の流れを考えて、単元構想をする。
④子供自体の問題解決と教師の意図によって導く深い学びとの両方を考えて構成する。

◎社会的な見方・考え方

社会科における「見方・考え方」は、社会科らしい学びへのアプローチとなるものであり、事例の理解に終わらず、教材や事例を通して、社会を見る目(世の中を見る目)に変えるものである。

【講師】

国土館大学 教授 澤井 陽介先生



位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係など(視点)に着目して社会的事象を捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること(方法)

『小学校学習指導要領解説 社会編』(平成29年)

協議の視点

- 【視点①】付けたい力を育成できる単元構想となっているか。
【視点②】単元を貫く問いと各時間の問いとのつながりはどうか。

【視点②について】単元を貫く問いと各時間の問いと学習活動は、児童が見方・考え方を働かせることができるものとなっているか。(特に、学習問題の設定後の5~9時間目について)



- 5時間目の「百姓一揆と打ちこわし」のグラフを読み取る活動は、単元を貫く問いの「開国による日本の変化」に対して時期や時間の経過に着目し変化をつかむ位置付けとなっている。
本時の直前の8、9時間目が大切である。ここで、武力で政府に抵抗するだけではなく、言論による政治改革が起こったことの意味をつかませておくことが大事ではないか。

授業研究会(11月18日実施)

本時の授業

【課題】土佐の人々は、なぜ新聞の葬式をしてまで政府に抵抗したのだろう。

【社会的な見方・考え方】事象と人々の相互関係

【本時で目指す児童の姿(具体的表現)】

- 土佐の人々は、政府の弾圧に対して、武力ではないやり方で立ち向かったんだ。
自由民権運動の動きの中で、土佐では政府に自分たちの想いや願いを届けたくてやったんだ。



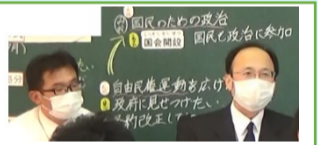
研究協議

【視点】

児童が見方・考え方を働かせながら、本時のゴールに迫ることができていたか。その要因はどこにあったのか。



- 導入の資料から、人ではなく新聞の葬式と知った時の児童の疑問から課題を作ることが出来ていた。しかし、土佐の人々が「自分たちの力=言論の力」で国を変えていきたかったからということについては児童の捉えとしては弱かったのではないかと感じた。本時までの学びを活用できるような手立てが必要ではないか。



- 本時の課題は「なぜ新聞の葬式をしたのだろう」であれば、「政府に抵抗するため」→「なぜ抵抗したのか」...と児童の思考が流れたのではないかと感じた。また、本時の見方・考え方は、「事象と人々の相互関係」である。自由民権運動の広がりのおかげで、高知での動きを特色づけるために、他県では何が行われていたのかを比較できると良かったのではないかと感じた。

参加者の声 ~今後の実践に向けて~

- 「教材を通して社会を見る目を育てる」ということを念頭に置き、授業づくりをしていきたい。
前時までの板書のコピーやノートを振り返って、それを根拠に意見を述べようとする児童の姿は素晴らしい。単元のゴールに向けて児童の学び、思考をつなげるためにも各時間の学び、課題解決で得られた考えが大切になってくる。児童の予想を入れた単元構想図や単元で目指す児童の姿を明確に持つことが大切だと思った。
本時のゴールに迫るために課題や発問を工夫する必要があると改めて感じた。また、単元の学習計画を立てる際には、児童の疑問から学習問題を立てることを大事にしていきたい。



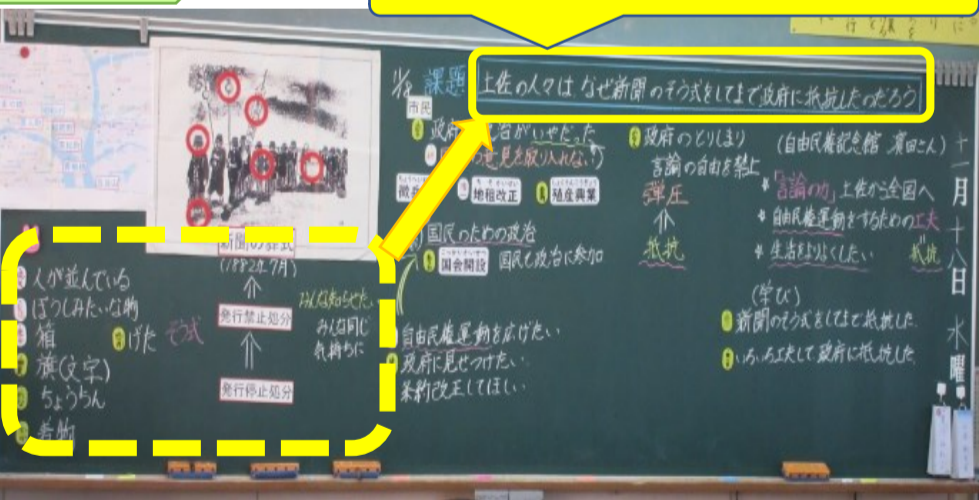
授業者より



単元全体を通して意識したことは、単元末の児童の姿の実現に向けて、問題解決的な学習で各時間を積み上げていくということです。そうすることで、本時でつかませたい当時の土佐の人々の行動や思いの要因を捉える際、児童が自由民権運動までの学びから得たことを根拠にして考えることにつながりました。澤井先生からのご助言や参加者の先生方からのご意見を今後の実践に生かしていきたいと思っております。

本時の板書

児童の気付きや疑問から学習問題(問い)を設定



授業づくりのポイント

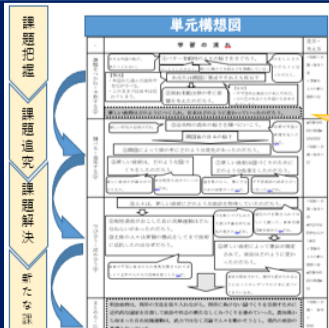
単元で付けたい力を児童の姿で明確に捉える

問題解決的な学習プロセスで授業設計をする

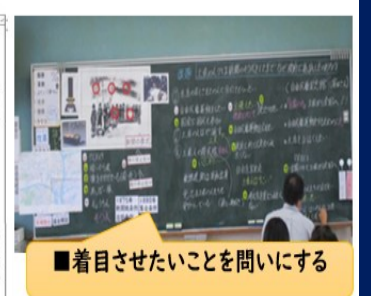
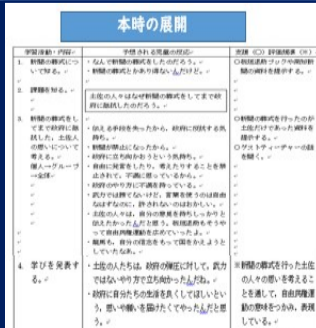
見方・考え方を働かせることができる問いと学習活動を位置付ける



学習指導要領目標や内容、学習指導要領解説をふまえて、単元で付けたい力を設定する。資質・能力を明確にするとねらいが明確になる。



児童の疑問から、単元を貫く問いや各時間の問いを設定する。



着目させたいことを問いにする